

## インド ブドウは出荷量が増加するが輸送に課題

The Grape Reporter 2024年2月27日

ある大手輸出業者によると、インドでは何か月にもわたって気温が平均を上回っているにもかかわらず、ブドウの出荷シーズンは好調なスタートを切った。ブドウ輸出業者パナセア・エナジヤイザーズ社の幹部であるパレシュ・バヤニ氏は、今年は早く始まったと言う(以下「」は同氏の発言)。「通常より15日近く早く、12月中旬に開始した。終了もおそらく2週間早まるだろう。しかし、出荷量は前年比20%増を見込んでいる。」これまでのところ、果実の品質と生産量は過去数年間よりも良い。

インド産のブドウは、主にヨーロッパ、英国及びロシアに輸出されている。バヤニ氏は、インド産ブドウのヨーロッパ市場への供給は3月末までは続くと確信している。

### 輸送時間の延長

紅海の危機により貨物は南アフリカの喜望峰を迂回することを余儀なくされ、輸送時間が大幅に長くなっている。「これは果実の輸送にかかる日数が、スエズ運河を通過した場合の21日に比べて、41日に延びることを意味する。特に輸送中の水分の損失により、到着時に脱水の問題が生じるかもしれない。しかし、全体的には、今シーズンは有望なようだ。唯一のマイナス要因は運賃である。」同氏は、11月に紅海の危機が始まる前は、ヨーロッパへの運賃は1,100ドルから1,200ドルの間であったと言う。現在、輸送日数の延長に伴い、運賃は約4,500ドルに上昇している。

### インド産ブドウの主要市場

インド産の輸出量の大部分は、オランダのロッテルダム港または英国に輸送される。バヤニ氏によると、ロッテルダム向けの第6週(2月上旬)の出荷量は1,027コンテナで、2023-24年度シーズンこれまでで最多となった。インドの出荷シーズンは早く終了するため、今年このあとヨーロッパ市場で品不足が発生する可能性があると同氏は考えている。「現在、市場での価格は12ユーロから15ユーロ程度である。南アフリカ産の出荷量や、今年は復活祭が早いので(通常は4月、今年は3月末)それに向けた販促の取組によっては、10ユーロ前後まで下がる可能性がある。」

### 極東市場

バヤニ氏によると、出荷最盛期の課題は欧州市場の飽和だと言う。欧州市場は週に約670~700コンテナの受け入れ能力があるが、これは成長の余地が限られていることを意味する。

「極東アジア市場、おそらく中国に目を向ける必要があるかも知れない。しかし、個人的には、極東アジア市場は品質の面で非常に要求が高く、非常に不安定だと思う。私も過去に試したことがあるが、すべてが顧客主導である。そのため、入荷する果実が多すぎると、損をする可能性がある。」

極東アジア市場は規模が大きく、インドとの距離も近いが、制約もある。「主要船会社は冷蔵コンテナをあまり提供しておらず、価格は最大9千ドルに達する可能性がある。」同氏によると、極東とロシアへの輸送運賃は、輸出業者が出荷に対して得られる対価よりも高く、それがインドの輸出業者のこの地域への出荷が非常に少ない理由である。「インドはかつて、週に約125コンテナのブドウをロシアに輸出していた。今年は、50~60コンテナほどしかない。」

### 新品種

バヤニ氏は、SNFLグループ(本社スペイン)の5つの新品種とIFG社(本社米国)の2つの品種のほ場試験を開始した。「今年は、アリソンとティムコの2品種のコンテナをテスコ等の英国のスーパーマーケットに輸出する。近い将来、新品種が重要な役割を果たすだろう。この業界で20年やってきてわかったことは、新品種に対する市場の需要がどんどん高まっているということである。インドでは、この需要に対する認識が高まり、より多くの生産者が関心を寄せている。」

同氏は、ティムコとアリソンの最初の生産物を見て、これらの新品種の品質と遺伝的特性について自信を深めたと言いき、インドのブドウの将来について、「インドの生産者にとってのすべての問題の解決策は、品種を入れ替え、植物の生理をよりよく理解し、出荷シーズン以前の手入れをしっかりと行うことである」と述べた。